

# Support

No. 5

平成22年12月17日

編集・発行

学校支援課 広報担当

<http://www.city.niigata.jp/info/gakusi/>

## 授業改善フォーラム2011 予告

この研修会では、新潟市の全国学力・学習状況調査の国語と算数・数学の分析結果と授業改善のポイントを具体的に示します。

また、文部科学省の永田潤一郎教科調査官からは、思考力・判断力・表現力等の育成や言語活動の充実などについて講演していただきます。

**【日時】** 1月18日(火) 午後1時40分～午後4時40分(受付午後1時10分～)

**【会場】** 新津地区市民会館

**【内容】** 北区と東区の学力向上研修会の進め方と同じように、  
校種別・教科別の「分科会」と「話し合い」を取り入れます。

※後日、分科会場などの詳細な連絡を参加校にします。

- ① 各部会で、北区・東区研修会での成果を報告します。
- ② 全体会
- ③ 永田調査官の講演 I
- ④ 「各教科において、どのように言語活動の充実に取り組むか」  
校種別・教科別の班で話し合います。
- ⑤ 情報の交流
- ⑥ 永田調査官の講演 II

### <講師紹介>

- ・国立教育政策研究所 永田潤一郎 教育課程調査官(数学)
- ・千葉県立の高等学校及び千葉大学教育学部附属中学校教諭を経て、平成17年から現職。
- ・文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官を併任。
- ・平成18年から教育課程研究センター研究開発部学力調査官も併任。

### STEP ステップアップWeb配信

来年度の新潟市ステップアップWeb配信事業は、以下のような方向で検討しています。(算数・数学の基礎的・基本的な知識・技能の習得状況を把握することは変わりません。)

#### ○小学校・・・4年生以上に配信します

※今年度作成した「4年生と5年生」分を新しい教科書に準拠した問題へ整備します。新たに「6年生」分も作成し配信します。

#### ○中学校・・・全学年に配信します ※新たに「2年生と3年生」分を作成します。

#### <来年度のスケジュール予定>

4月・・・「ステップアップWeb配信事業」説明会を開催します

5月・・・全校から参加申込みを受付ます

6月・・・配信を開始します



「活用ありがとうございます。  
取組を進めていく中でお気付き  
のこと等がありましたら、声を  
お寄せください。」

# 特集1 学力向上研修会(北区10/25 & 東区12/6)

全国学力調査を実際に作成している国立教育政策研究所の学力調査官の樺山敏郎先生と清水宏幸先生をお迎えして、グループ演習と調査官からの講演の2本柱で行いました。

校内が忙しくなる時期に、半日日程のタイトなスケジュールで開催しましたが、ご参加いただいた方からは、熱心な協議をしていただきました。ありがとうございました。



## <国語部会> 参会者の声

- 先生方と話し合うことで、話す聞くについて、特にスピーチ、資料について本当に考える機会となり、勉強になりました。
- 話し合いを進めるうちに、皆同じことを考えていたことがわかり反省するとともに、今後の授業にいかせる有意義な時間を過ごすことができました。長時間だったが、足りないくらい充実していました。
- 普段考えなかったことについていろいろ考えました。時間がないから・・・で終わらず、本当の意味で様々な機会をとらえて、目標を絞って明確にしながら取り組むことが必要だとわかりました。

## <算数・数学部会> 参会者の声

- 他の学校の実態を知ることは少ないので、それぞれの実態や課題、改善のための手立てが共有できてよかったです。学力向上委員の先生方の的確な助言で話し合いが焦点化されて、短い時間にたくさんの内容を話し合うことができました。
- 大変に有意義なものでした。改善策も、何を重要視していくか論点が明確になり、自分の授業にいかしたいことが多くありました。数学について話をしているとどの先生方も熱く、主張があり、時間がたりないくらいであった。このような討議を常に行えばよいのだが、日常ではなかなか時間が取れないことが問題だと思いました。



## <学力調査官の講演をお聞きして>

- とても具体的で分かりやすく、焦点が絞られており、勉強になったとともに最新の情報がいただけて、とてもよかったです。
- とても分かりやすかったです。具体例もありましたし、分析結果もあり、納得のいくお話でした。頑張らなきゃと思いました。



### 樺山 敏郎先生の感想

新潟市の意欲、チームワーク、学校のや大学等との連携、学校や大学等の素晴らし、いれもの等で、このよう成果に取組まざる。このをい念しに取組まざる。



### 清水 宏幸先生の感想

現場の先生方と直にお話しできた機会は大変有意義でした。でも大変有意義に話した。でも大変有意義に話した。でも大変有意義に話した。





# 特集2 幼・小・中の連携



「新潟市教育ビジョン 後期実施計画」では、基本施策5に「校種間・学校間連携を活かした特色ある学校・園づくり」を掲げています。幼・小・中の校園長で組織する「幼・小・中学校連携推進委員会」と連携し、中学校区を単位として連携を推進しています。

中学校区単位の幼・小・中の連携をさらに実効あるものにするために



- 推進体制の確立・整備と組織的な取組(行動連携)
- 今ある組織を整備・今ある事業を位置付け・リンク



一貫教育カリキュラム作成を前提に、意見交換・検討を行う。

「指導計画作成」(22年度目標 57校区中23校区以上)

「小一小連携」(22年度目標 43校区中16校区以上※)

※複数の小学校のある中学校区



## 教育懇談会

「近隣の中学校区の幼・小・中学校間で、地域に応じた課題を共有し、協議したり情報交換したりしたい」という声が多かったため、今年度から同じ区内の近隣の中学校区同士でグループを作りました。今年度は、次の中学校区で教育懇談会を実施しました(24年度までに全中学校区で実施)。

【北区】 松浜・南浜・濁川

【東区】 山の下・藤見・下山

【中央区】 二葉・舟栄・宮浦

【江南区】 亀田・亀田西

【秋葉区】 金津・小須戸

【南区】 白南・臼井

【西区】 坂井輪・五十嵐

【西蒲区】 巻東・巻西

## 特長のある取組(教育懇談会からほんの一部を紹介)

### 組織

- ・幼・小・中・校の校園長が毎月情報交換
- ・小中連携特別支援委員会
- ・生徒指導上の情報交換会を年6回
- ・校務分掌に小中連携委員会
- ・3校PTA合同役員会を年4回
- ・自治会、コミュニティ協議会と協力
- ・〇〇地区プロジェクト長会議(校長・教頭・教務・プロジェクト外長)
- ・PTA、セーフティスタッフも入れて7つの部会

#### 【連携組織について】

- ・中学校区内で分担し、輪番制
- ・ミドルリーダー(部会主任、プロジェクト外長)を活かす
- ・PTAや地域の組織を活かす
- ・生徒指導加配教員、特別支援教育コーディネーターを活かす
- ・地域教育コーディネーターを活かす

### 指導計画

- ・家庭学習の手引き
- ・集団スキル指導計画
- ・学校での学習や家庭での学習の仕方
- ・人権・同和教育の小中一貫した指導計画
- ・小3～中3の総合的な学習の時間の指導計画
- ・発表力の育成(総合中心)
- ・小中連携した食育

#### 【指導計画作成の効果】

- ・育てたい子ども像の明確化
- ・幼・小・中のギャップ、温度差解消
- ・小一小の同一歩調
- ・学習履歴の系統確認・発展・整理

#### 【留意点】

- ・中学校区の課題に焦点付けて
- ・無理なく活用できる計画を

### 教育活動・研修

- ・3小学校5年生が妙高自然の家で合同合宿
- ・小中共通の到達目標(学習・生活)を設け、小1～中3までアンケートを実施し、小中全職員で実態把握と今後の対応策検討
- ・子どもを語る会(公開授業と課題別グループ協議)
- ・〇〇地区教育研究協議会
- ・小中合同ライフスキルワークショップで26名がライセンス取得
- ・5、6年と中学生が縦割りグループで体力テスト実施
- ・全職員合同研修会・懇親会

#### 【情報連携から行動連携へ】

- ・年長や6年生以外の情報交換も
- ・今ある教育活動を無理なく活かす
- ・発達障がい等への早期対応
- ・相互理解、そして批判的同僚性を

# にいがた教育知図

## 沼垂小学校～自分の考えをわかりやすく伝えることができる子どもの育成を目指して～

児童の考えを生かし高め表現させるために「電子黒板の活用」「板書の構造化」などを、日常的に授業に取り入れている。【沼垂プラン】として「課題把握」「自力解決」「考えの明確化」「考えを高める」「まとめる」の学習過程を基本としている。また、思考の流れや解決の過程を明確に可視化するために、【構造プレート】を使い板書の構造化を進めている。指導過程における電子黒板活用の質の充実を目指した研修がなされている。

2年算数「たし算のひっ算」では、「課題把握」段階でのイメージや意欲の拡充や、「考えの明確化」段階での学びの補完として電子黒板を活用していた。位取り表のブロック図を使い、ブロックの操作過程を電子黒板上で説明させたり考えさせたりすることで、解決の過程をどの児童にも共有化させていた。

6年社会では、日清・日露戦争について映像や地図で視覚化し、自力解決の見通しをもたせていた。「考えを高める」段階では、意外性と未知の部分のあるグラフを電子黒板に提示し、考えの交流をもとにグラフを完成させた。また、特別支援学級も、実物と電子黒板の映像を併用し、活発な発言のある授業を展開していた。どちらも電子黒板と板書の効果的な連動が、課題意識を持続させていた。

課題を共有・協働した教師集団の挑戦と着実な研修が、児童の学習意欲の向上や思考力・表現力の育成につながっている。  
(文責 中央区指導主事 小田八重子)



## 藤見中学校 ～躍進藤見は地域と共に～



来年度学校創立50周年を迎える。それに伴い、同窓会役員やPTA、地域の学校支援団体など多くの方が学校を訪問し、直接生徒の様子を目にする機会が増えている。

9月に生徒と保護者や地域住民が協力して学校の環境整備を実施した。日ごろ経験することの少ない地域の方や多くの保護者の方と一緒に活動する貴重な体験であった。また、年に2回授業参観に地域住民を招待しているほか、じゅんさい池クリーン作戦などで、生徒が地域に出かけ、ボランティア活動を行っている。

前年度の成果と課題を踏まえ、今年度は「全校基礎学力テスト」の充実と、新たに「学力向上五原則」を設定し徹底を図っている。さらに、教育相談や思いやりなどをテーマにした授業を繰り返すことにより、「学校が楽しい」と肯定的に答える生徒の割合が増加した。特に3年生の数値が高く、学校生活の中で下級生のよいモデルになっている。

多くの方から学校に足を運んでいただくとともに、生徒が地域で活動したり、学校の様々な情報も提供している。双方の交流や信頼感が深まる中で、多くの人からの声援もあり、今まで以上に生徒が意欲的になっている。その根幹には「躍進藤見は地域と共に」を合言葉に、学校・保護者・地域が力を合せて「活気に満ちた学校づくり」に取り組む姿がある。

(文責 東区指導主事 相澤健蔵)